








病害虫発生予察情報予報第 12 号


佐賀県農業技術防除センター


I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名		3月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病 ^{注3)}	早生 ^{7/4}	やや多	並	278~280	 べと病 越年罹病株
		中晩生	やや多	やや少		
	ポトリチス葉枯症		並	並	280~281	
	白色疫病		並	並	282~283	
	ネギアザミウマ		やや少	並	287~288	
1. べと病 3月の発生予想は前年並~やや少であるものの、例年、越年罹病株の発生はこの時期が最も多くなる。また、早生品種を中心に2次感染が始まる時期でもあり、防除上重要な時期である。 各ほ場で越年罹病株の発生状況を確認し、発生が認められた場合には速やかに抜き取りを行う。併せて、定期的な薬剤防除を確実に実施する。(平成29年1月31日付注意報参照)						
イチゴ(本圃)	ハダニ類		やや多	並	205~206	 ハダニ類
	うどんこ病		やや少	少	195~197	
	灰色かび病		並	並	198~199	
	アブラムシ類		多	多	210~211	
1. ハダニ類 多発生圃場が認められ、今後更に発生が増加する可能性がある。発生状況を随時確認するとともに、薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する(平成29年2月27日付け発生予察注意報第5号参照)。 2. アザミウマ類、コナジラミ類 発生が見られる圃場がある。春先の多発生を防ぐため、低密度時の防除を徹底する。 3. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 ミツバチへの影響が小さい薬剤を選択するとともに、散布前に巣箱を圃場外に持ち出す(平成28年度施肥・病害虫防除・雑草防除のてびき p.532~536 参照)。						
キュウリ	べと病		やや少	少	175~176	 キュウリべと病
	うどんこ類		並	並	173~174	
	褐斑病		やや少	並	178~179	
	アザミウマ類		並	並	152~156 187~188	
	コナジラミ類		並	並	186~187	
1. ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ 黄化えそ病や退緑黄化病を媒介するため、薬剤防除を徹底する。また、スワルスキーカブリダニを利用する場合には、両害虫の密度を薬剤防除により抑えた後に放飼する。						

作物名	病虫害名	3月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	疫病	やや多	やや多	216~217	 トマト灰色かび病
	葉かび病	やや多	やや多	222~223	
	灰色かび病	やや少	並	217~218	
	コナジラミ類	並	並	149~151 225~227	
	1. 葉かび病、灰色かび病、疫病 こまめな換気を行うとともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。また、 <u>発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布</u> を組み合わせる。				
2. 黄化葉巻病 一部の圃場で発生が見られる。発病株は抜き取り、適切に処分するとともに、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。					
ナス	すすかび病	少	少	232~233	 すすかび病
	灰色かび病	やや少	少	231~232	
	菌核病	並	並	234	
	アザミウマ類	やや少	並	238~239	
	コナジラミ類	やや少	並	239~240	

作物名	病虫害名	3月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
カンキツ	かいよう病	並	並	222~224	ミカンハダニ 
	ミカンハダニ	やや多	並	242~244	
	1. かいよう病 前年の罹病葉及び罹病枝は伝染源となるため必ず除去する。ただし、強剪定は枝が遅くまで伸長し、本病にかかりやすい期間が長くなるので行わない。 また、前年発生園や風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、発芽前の3月上旬に必ず銅剤を散布する。				
ナシ	2. 黒点病 枯れ枝は主要な伝染源であるので、剪定時等に除去し処分する。				
	1. 黒星病 落葉は主要な伝染源であるため、除去、処分し発芽期前後の防除を徹底する。				
フルーツ キウイ	1. かいよう病 枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液が漏出する症状（右写真参照）の早期発見に努め、発見した場合には直ちに罹病部位を切除する。また、全ての園において、感染防止のため6月まで銅水和剤及び抗生物質剤を主体とした定期的な薬剤防除を徹底する（H29年1月24日付け病虫害対策資料第21号参照、なお、防除対策の <u>詳細は防除のてびき P358~359</u> を参照）。				 かいよう病による 樹液の漏出

作物名	病虫害名	3月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	並	やや多	415~416	 カンザワハダニ
	<p>1. カンザワハダニ 多発してからは防除効果があがりにくいので、萌芽前までの防除を徹底する。</p> <p>2. チャトゲコナジラミ 発生地域：越冬幼虫の密度を低く抑えるため、発生茶園では萌芽前までにマシン油乳剤による防除を行う。 未発生地域：導入苗に本虫の寄生がないか確認を行うとともに、定植直後にマシン油乳剤を散布する。本虫が寄生していた場合、剪枝後、残った葉を全て落として定植し、除去した葉は土中に埋設するなど適切に処分する。</p>				

作物名	病虫害名	3月の予想発生量 ^{注1)}		病虫害防除のてびきの記載頁^{注2)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キク	白さび病	やや少	並	380~381	 白さび病
	アザミウマ類	多	多	384~385	
	アブラムシ類	並	並	386~387	
	ハダニ類	並	並	385~386	
	ハモグリバエ類	並	並	388~389	
<p>1. アザミウマ類 一部の圃場で発生が多い。圃場内の発生状況をよく観察し、発生初期からの防除を徹底する。</p> <p>2. 白さび病 発病後の防除は難しいため、薬剤の定期的な散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。</p>					

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注2) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

注3) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 5 ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

3月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 3 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 29 年 2 月 24 日）を基に、「気温：平年並」、「降水量：平年よりやや少ない」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 3 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	30	40 (9.9°C)	30	並
降水量	40	40 (128.6 mm)	20	やや少ない

Ⅲ. 3月の予報

タマネギ

巡回調査 (20 圃場)
調査日 : 2月21、22日



巡回調査の圃場の様子

1. ベと病 (早生マルチ)

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 : 0.08% (平年0.09%、前年0.71%)

平年比 : 並 (±)、前年比 : 少 (−)

(2) 12月の気象

12月の佐賀市の降雨日数は18日と多く、多発生の条件であり、感染が助長されたと考えられる。〈+〉

(3) 3月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (−〜±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

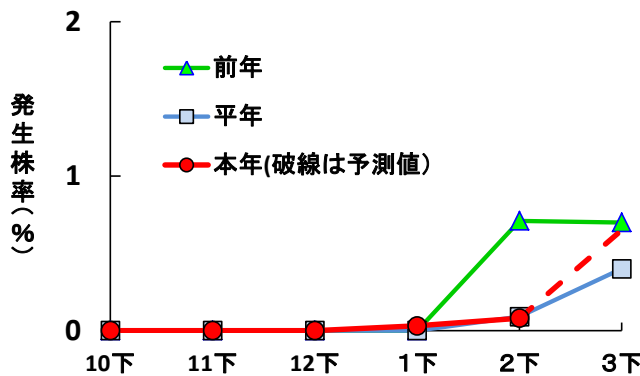


図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

2. ベと病 (中晩生)

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや多い (前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 : 0.01% (平年0.02%、前年0.15%)

平年比 : 並 (±)、前年比 : 少 (−)

(2) 12月の気象

12月の佐賀市の降雨日数は18日と多く、多発生の条件であり、感染が助長されたと考えられる。〈+〉

(3) 3月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (−〜±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

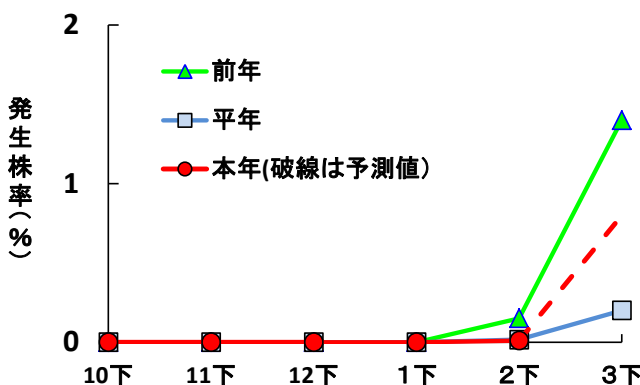


図1 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1参照)

発生株率 : 0% (平年4.9%、前年3.6%)

平年比 : やや少 (−〜±) 前年比 : やや少 (−〜±)

(2) 3月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件 (−〜±)

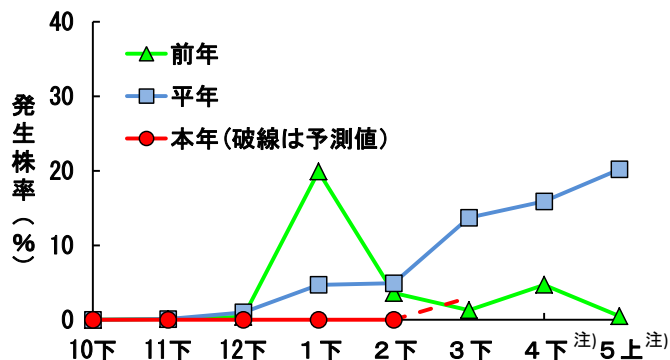


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期の防除を徹底する。

4. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年2.1%、前年0.1%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、かけむらがないように散布する。

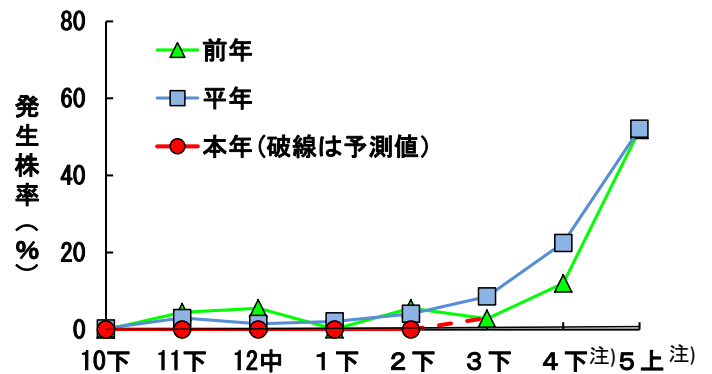


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

イチゴ（本圃）

（巡回調査 12 圃場、
調査日：2月17日～21日）

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：23.7%（平年15.5%、前年29.7%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

4圃場で発生確認、発生株率は16.7%（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によって薬剤の感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。
- (2) 同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的に防除を行う。
- (3) その他は特記事項を参照。



巡回調査圃場の様子

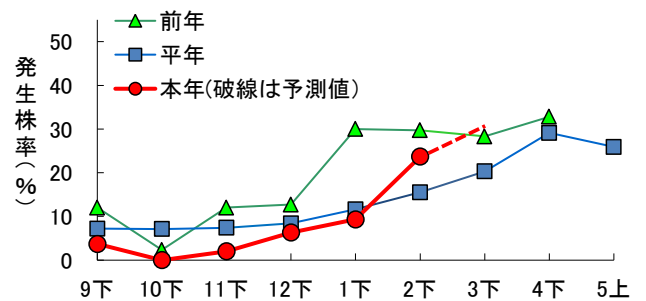


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病（本文掲載）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.6%、前年4.0%）

平年比：少（-） 前年比：少（-）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

3圃場で発生確認、発生株率は2.0%（一～±）

(2) 3月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件（一～±）

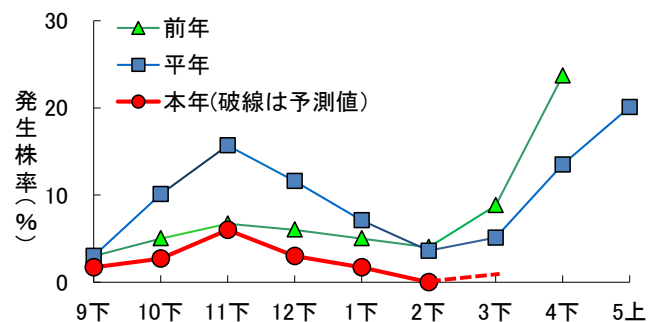


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 春先の多発生を防ぐため、本病の発生がある圃場では約2週間間隔、発生がない圃場では1ヶ月間隔の薬剤防除と硫黄剤のくん煙処理を組み合わせる。

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0.7%（平年0%、前年0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

②病害虫防除員による調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は2.0%（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に薬剤防除を行う。

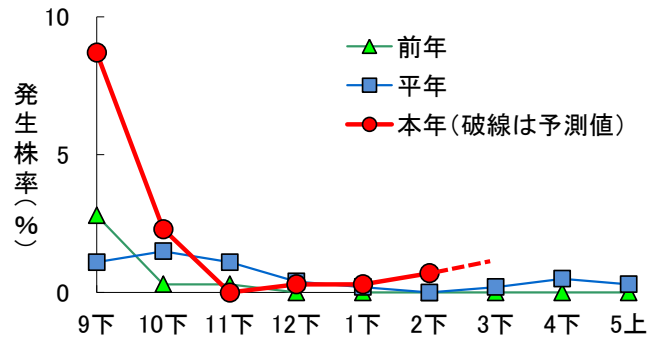


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移



巡回調査圃場の様子

キュウリ

巡回調査（8圃場）

調査日：2月17日～21日

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年1.5%、前年0%）

平年比：やや少<-~±> 前年比：並<±>

②3月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件<-~±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) こまめな換気を行うとともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。

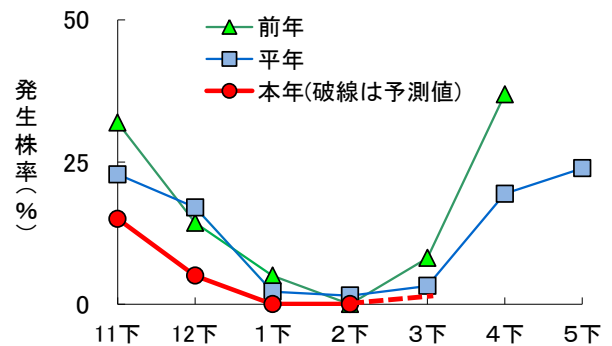


図1 キュウリべと病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.9%、前年2.9%）

平年比：やや少<-~±> 前年比：やや少<-~±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

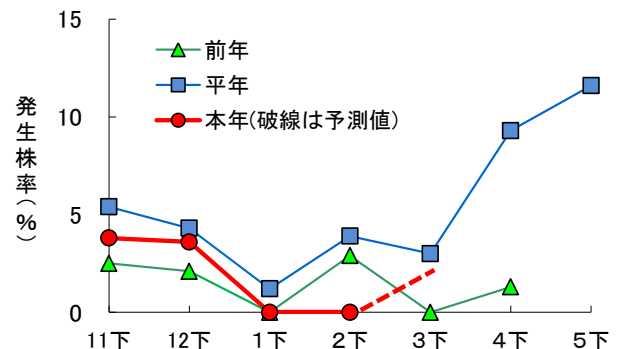


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

トマト

巡回調査 (8 圃場)
調査日：2月17日～21日



巡回調査圃場の様子

1. 疫病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：3.1% (平年1.2%、前年0%)
平年比：やや多<±~+> 前年比：やや多<±~+>

②病害虫防除員調査 (6 圃場)

発生を認めていない<±>

(2) 3月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件<一~±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

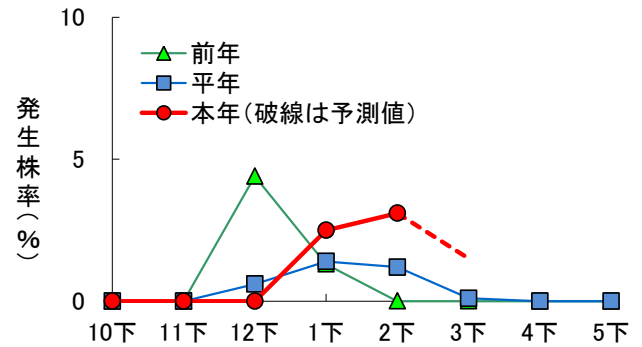


図1 トマト疫病の発生推移

2. 葉かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：5.6% (平年1.4%、前年0%)
平年比：多<+> 前年比：多<+>

②病害虫防除員調査 (6 圃場)

3圃場で発生確認、発生株率は4.2%<+>

(2) 3月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件<一~±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

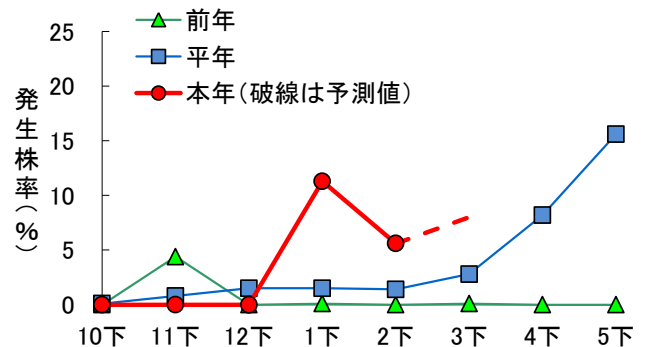


図1 トマト葉かび病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率：2.5% (平年7.5%、前年8.8%)
平年比：やや少<一~±> 前年比：やや少<一~±>

②病害虫防除員調査 (6 圃場)

3圃場で発生確認、発生株率は3.3%<一~±>

(2) 3月の気象予報

降水量はやや少なく、やや少発生の条件<一~±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

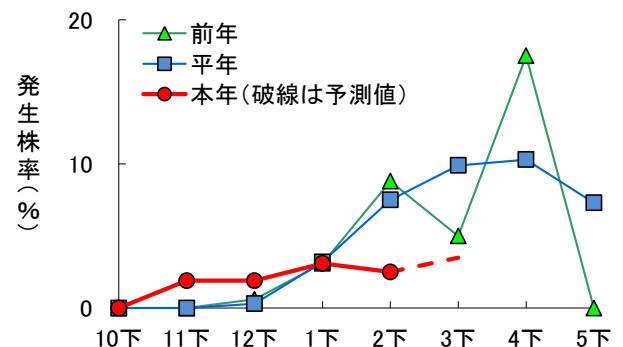


図1 トマト灰色かび病の発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：1.9%（平年3.1%、前年3.8%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は3.3%（±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

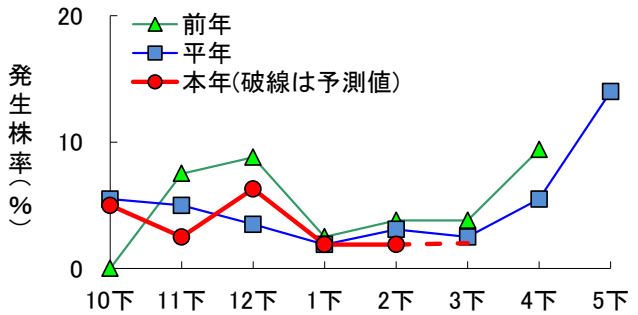


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移



巡回調査圃場の様子

ナス（促成）

巡回調査（7圃場）

調査日：2月16日～20日

1. すすかび病

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率5.7%（平年21.3%、前年22.5%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）

②病害虫防除員調査（6圃場）

4圃場で発生確認、発生株率は5.8%（-～±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病葉は早めに除去し、換気を行うなど適切な湿度管理に努めるとともに、定期的な薬剤散布を行う。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

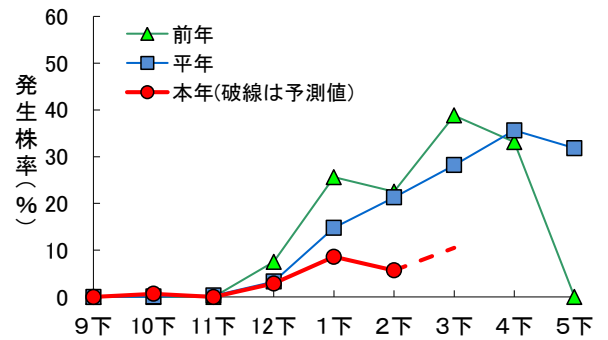


図1 ナスすすかび病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率0%（平年1.4%、前年0.6%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は0.8%（±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発病部位は早めに除去し、発生初期からの防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

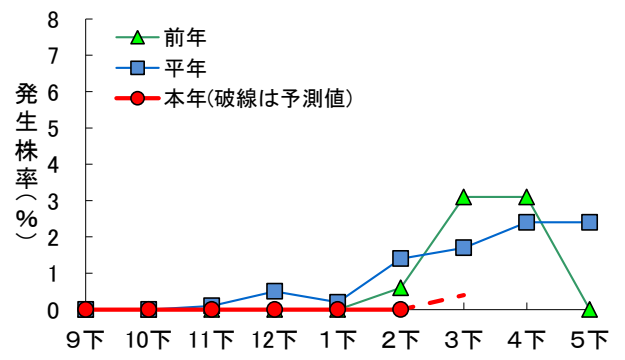


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 3.6%（平年 7.7%、前年 0.6%）
 平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員調査（6圃場）

3圃場で発生確認、発生株率は5.0%（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

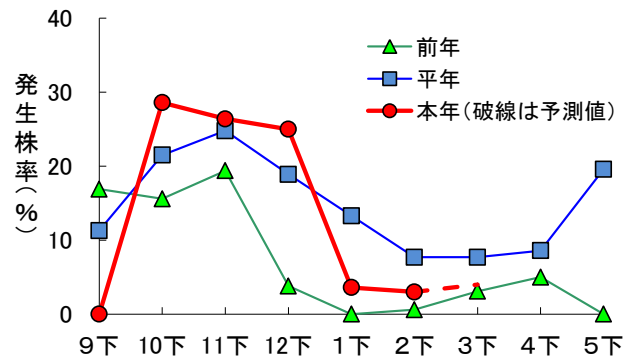


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

4. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率 5.0%（平年 13.3%、前年 3.8%）
 平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

②病害虫防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は3.3%（一～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

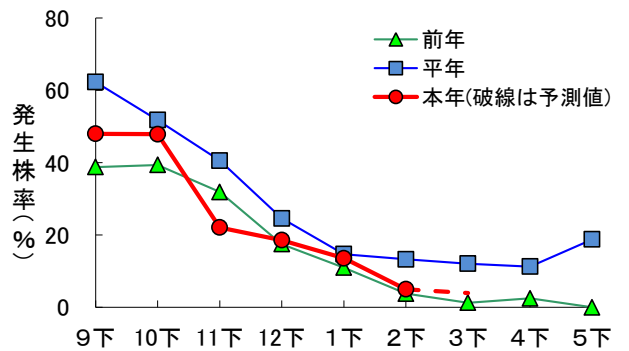


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

カンキツ

巡回調査（8圃場）
 2月16～20日

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年 0.2%、前年 0%）
 平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや少なくやや少発生の条件（一～±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。



巡回調査圃場の様子

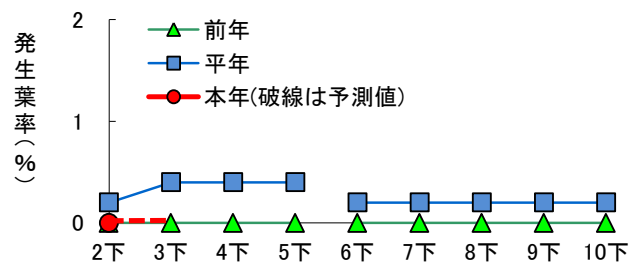


図1 カンキツかいよう病の発生推移
 （5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

2. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生葉率：1.9%（平年3.4%、前年4.0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや少なくやや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 冬期に越冬虫対策で、マシン油乳剤を散布できなかった場合は、発芽前の3月上旬にマシン油乳剤を散布する。

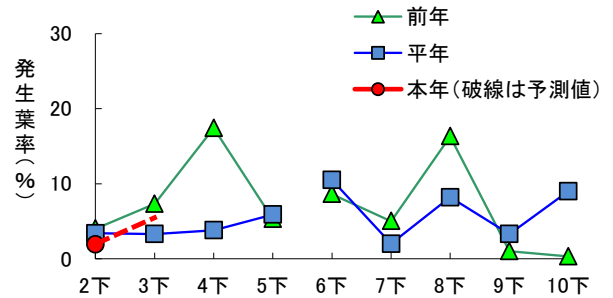


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移
（5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

茶

巡回調査（8圃場）

調査日：2月16日～20日

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率0.1%（平年5.9%、前年1.0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや少なく、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
(2) その他については、特記事項参照。



巡回調査圃場の様子（茶）

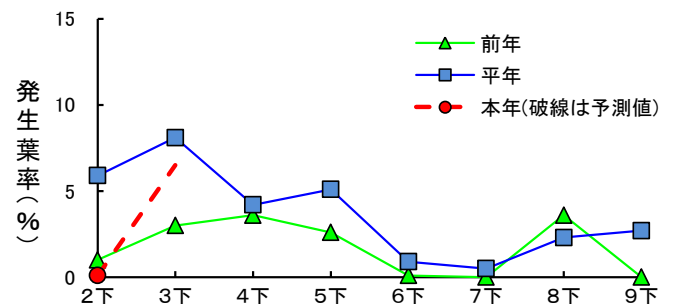


図1 カンザワハダニの茶での発生推移



巡回調査圃場の様子（キク）

キク

巡回調査（8圃場）

調査日：2月16日～20日

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率0%（平年3.7%、前年0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや少なく、やや少発生の条件（-～±）

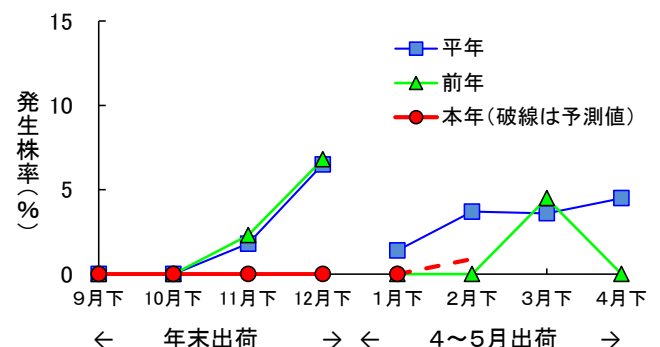


図1 キク白さび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 暖房機による送風や循環扇を活用するなどして、適切な湿度管理に努める。
- (2) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (3) その他については、特記事項参照。

2. アザミウマ類 (クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、

ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査 (図1 参照)

発生株率 2.5% (平年 0.9%、前年 0.8%)

平年比：多<+> 前年比：多<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3) その他については、特記事項参照。

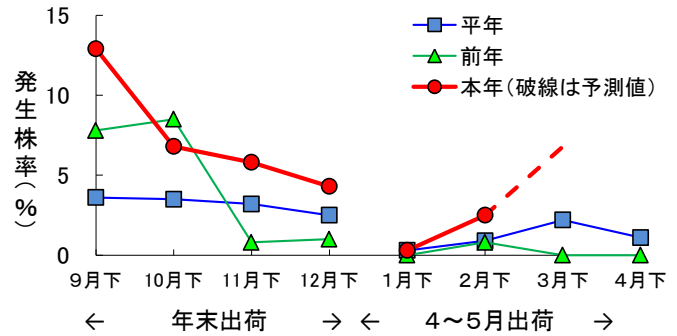


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査

発生株率 0.3% (平年 1.1%、前年 0%)

平年比：並<±> 前年比：並<±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

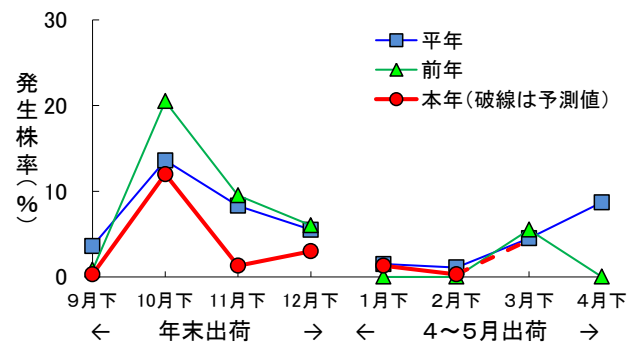


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に平成 29 年 1 月 26 日～2 月 22 日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・沖縄・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
タマネギ	べと病	1/31 佐賀県		1/27 香川県 2/8 兵庫県	
いちご	ハダニ類	2/1 長崎県			
冬春トマト	葉かび病、 すすかび病	1/30 宮崎県			
冬春ピーマン	斑点病	1/31 宮崎県			
さとうきび	メイチュウ類	1/27 沖縄県			

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名		病害虫名	発表日及び発信元
野菜類	トマト	退緑萎縮病 (TCDVd)	1/31 宮城県
	ハウレンソウ	ハコベハナバエ	2/14 京都府
果樹類	ナシ	さび色胴枯病	1/31 愛知県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。

農薬の登録内容は変更されることがあります。使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。

◎農薬を散布するときには、農薬の飛散に注意しましょう。

使用する農薬が、その周辺で栽培されている農作物で登録（適用）がない場合には、特に注意する必要があります。

◎防除器具は十分洗浄しましょう。

前回使用した農薬をタンクやホース内に残したまま、別の作物に使用すると国が定めた基準値を超過する恐れがあります。



（佐賀県・佐賀県植物防疫協会作成パンフレットから抜粋）

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
Mail nougyougi jutsu@pref. saga. lg. jp